

# J<sup>2</sup>TOP

一般社団法人 内外情勢調査会 [会報誌]

The Research  
Institute of  
Japan

6

June 2013 Vol. 75

2013年(平成25年)  
5月25日発行(毎月1回25日発行)  
第7巻第3号(通巻75号)

■特集1

ネット選挙は  
政治を変えるか

■特集2

北朝鮮危機の行方

■特集3

「脱ゆとり教育」で  
学力は向上するのか

■トップインタビュー

社会起業大学理事長 /  
リソウル株式会社代表取締役

田中勇一



# 歩道のガムを取るアイデア商品を開発。 小さな一歩から始まった無限の可能性



## 株式会社オギノ (東京都新宿区)

新宿区立環境学習情報センターや  
NPO法人環境まちづくりネットワークと連携  
してガム取り棒によるガム取り活動の  
体験ボランティア活動も実施。

取材・文/本誌編集部



荻野善昭 社長

まち美化用具販売業、省エネ用具販売

〒160-0002  
東京都新宿区新宿2-2-1-1002  
TEL: 03-3352-0029  
FAX: 03-3352-3800  
資本金: 1000万円  
従業員: 3人  
<http://www.e-ogino.jp/>

「道にいったばい黒いものがくっついてるのがガムだったと、知りました」「黒いものは何だろうといつも思っていたけどガムだった」「ガムは口から出してしまおうとゴミになる」「地面に落ちてしまおうとゴミで取れるんだと、初めて知りました」「ガム取りに挑戦して、たのしく街をきれいにできた」などなど。東京・新宿区のある小学校からオギノに寄せられた児童の感想文である。

歩道にこびりついているガムを簡単に除去できる環境関連製品を開発するオギノは、ベンチャー企業にもかかわらず、独自の発想とアイデアで注目を集めている。

### ■人力で取ろうとするのは大仕事

歩道に捨てられたガムを除去する製品を開発している会社と聞き、足下に注意しながら歩くようになってきた。すると、今まで気にならなかった歩道の黒い点々——おそろく口からポイ捨てにされたガムの跡があまりにも多いことに気付く。天然石や人工石だけでなく、レンガやカラー舗装にもしつかりと跡が残っている。特に、人通りが多い歩道ほど、その数は多くなる。

「歩道に黒くこびりついたガムを人力で取ろうと思ったら、これが意外と大変なんです。有機溶剤をかけて、しゃがみこんでこそぎ取らなければなりません。従来は、シ

ンナーなどを利用するか、後は根性です。表面が大理石のようなつるつるした歩道ならまだしも、細かい凹凸のある路面なら1カ所取るのに何分もかかってしまいます」

### 荻野善昭社長

は、こそぎ取る動作を手で示しながら説明する。ガム取りに使われる有機溶剤の中には、アスファルトまで溶かしてしまうものから引火点が約40度と低いものまで多種多様で、中には触れただけで皮膚がただれてしまう「危険物」もあるという。揮発性の強いものでは人体にも悪影響を及ぼすことは必定だ。環境美化の観点からタバコの吸い殻やゴミのポイ捨てを禁止している地域は多い。新宿区では条例でガムのポイ捨ても禁止され、罰金は2万円以下とされているが、実際には路上喫煙までもが制限されているタバコとは違って、ガムのポイ捨ては野放し状態だ。

荻野社長は「ガムを取るのに手間暇がかかり過ぎることもあって、行政がガム取り作業を積極的に進めることはありません。どこの地域でもせいぜいポイ捨てはやめましょうという啓発活動ぐらいしかできていない現状ですね」と、少し



ガム取り商品は官公庁をはじめ、数多くの納品実績がある。写真はレバー式ガム取り棒。

悔しそうに語る。

### ■産学連携で大学に試作品を依頼

荻野社長が路上のガムとの「格闘」を始めたのは30年以上前にかのぼる。

「実家は祖父の代からの小売りの洋品店でした。場所は新宿三丁目の繁華街で、人通りは昼も夜もひっきりなし。物が豊かになり始めた頃からかな。ガムで汚れたところは平気でガムが吐き捨てられるんですね」

荻野社長は「それが続くと、やがて治安も悪くなっていきました」と眉を曇らせる。「店の前でガムを踏んだ人が店に文句を言いにくるようになりました。さらには、ガムを踏んだ靴でそのまま店を歩き回ると、店の床も汚れが目立ちます。ブランドものを扱うしゃれた店だったので、清掃には人一倍気を使っていました。とにかく店舗内も



歩道のガム取り専用液(ガム取り番)は筑波大学と産学連携を結び開発したものです。

入り口もきれいにしておかなければなりません。それで、歩道のガムを根性で取るんですが、2、3日するとまた黒い点々が…」

荻野社長は、子どもの頃から見てきた光景がずっと続く、まさにガムとのいたちごっこだったと苦笑する。その後、2003年に貸しビル業に転じるが、頭の中から去らなかつたのが街の美化だった。ガムメーカーと折衝して、ガム取りの方策を講じてもらおうと掛け合うが、「メーカーとして作る責任はあるが、ポイ捨てまでの責任は負えないと門前払いでした」と、荻野社長は憤まんやるがたないといった表情だ。

そんな荻野社長に救世主が現れる。たまたま異業種交流会に出席していた荻野社長は、産学連携で

参加していた筑波大学にガム取り製品の研究開発を依頼することに。条件は、作業者が安心して使用できるような有害物質は使わないこと、環境にも優しいものであること、そして価格は清掃のボランティア団体でも気軽に購入できる範囲ということだった。

「話を持ち掛けると、そんなのは簡単だとあっさり言われました。1週間か2週間ほどでできますよ」と。ところがいつまでたってもできてこない。荻野社長のもとに試作品が届けられるまで1年以上かかったのである。

荻野社長は「きつと遅れたのは、大学のあるつくば市ではガムで汚れた歩道がなく、研究開発の意欲が湧かなかつたのでは」と笑うが、「口の中だけでも40度ほどで溶けやすくなるガムの成分がよく分からないことだったようです」とフオローする。出来上がった溶液は、オレングリオイル、グリコール類、天然炭化水素類、界面活性剤などからなり、粒子が非常に細かいのが特徴だ。歩道などに踏み固められたガムに溶液を3〜4滴振り掛ける、ガムを通過して下の歩道面にまで浸透して、剥がれやすくなるという。

### 都の認定商品に選ばれて販路拡大

荻野社長は、開発以来から完成までの間、黙って待っていたのだ

けではない。ガムを路面から剥がし取るスクレーパー(お好み焼きなどで使うへら状のもの)を、ビジネス交流会で知り合った金物の産地である新潟県の燕・三条地区の金物メーカーに依頼。金ブラシや指カバーも自ら考案する。

溶液の「ガム取り番」が完成して、実際に使用してみると、新たな問題が出てきた。「かがんで作業すると、どうしても、腰に負担が掛かります。これはつらい。立ったままできないかと、アイデアを絞って作ったのが『ガム取り棒』です」(荻野社長)

ガム取り棒の素材は水道管などに使われる塩ビ管である。荻野社長の説明を受けて、外の歩道で実地体験してみることにした。下を見ると、至る所に黒く固まったガムの跡がある。場所は新宿御苑近くの人通りのある歩道。やや大きめの黒点にスクレーパーを当てて、手元のレバーを引く。溶液が滴り落ち、乾いていた跡が黒光りしたのを見計らってスクレーパーですつてみる。ほとんど力をかけずに簡単に剥がれた。確かに、腰に負担が掛からない。

東京都には中小企業を応援する「トライアル発注認定制度」がある。

これは「都民生活の利便に寄与し、かつ既存の商品と著しく異なる優れた」新商品の普及を図るために、都の機関が随意契約で購入できる制度だ。荻野社長のアイデア満載

のガム取り棒が2009年度の認定商品に選ばれ、新宿区や目黒区、豊島区、さらには駅などの公共施設などから注文が相次ぐようになったという。

荻野社長はNPO法人を設立。理事長としてボランティアの高齢者とともに週3回は歌舞伎町などの繁華街に向いてガム取りの清掃活動に取り組んでいる。「地道に活動を続けていると、道がはつきりときれいになっていくのが分かります。きれいな道だと、ガムでもゴミでも捨てにくくなります。それが街全体の美化につながっていくはずですよ」と力強く話す。さらには、小・中・高校に招かれてガム取りの授業も行っている。「今は普及・啓発活動が中心になって忙しいだけで、ビジネス的にはなかなか結び付いていません」と謙遜する荻野社長だが、次なる「攻めのアイデア」をきつと胸に秘めているはずだろう。



「東京トライアル発注認定制度」で認定された「ガム取り番」と「ガム取り棒」。

工場で使う地下水の量を上回る

水を育むために、森の水源涵養力を高めていく。

わたしたちは、自然と、そう約束しました。



目標。工場で使う量を上回る地下水を<sup>かんよう</sup>涵養すること。

森の水源涵養機能を守り、高めていく。2003年、熊本・阿蘇から始まった

『天然水の森』活動は、いま白州、奥大山、赤城など全国10数ヶ所に拡大。

その総面積は、2011年7月末に目標の7,000haに到達しました。

これから50年、100年と、サントリーの全工場で使用量を上回る

地下水を涵養し、「水のサステナビリティ」を守る活動を続けていきます。

<http://suntory.jp/ECO/>



「水と生きる」企業として、できることから。

たとえば、水源涵養活動『天然水の森』。

水と生きる **SUNTORY**